

「元気で長生きを支援

予防理学療法の効果を確認する 全国初の試み

加齢による衰えを防ぐには適度な運動と社会活動を心がけ、病気や怪我からの社会復帰には適切なリハビリを受ける必要がある。しかし、「分かっているが続かない」と思っている高齢者も多いはず。元気で長生きを支援するための全国初の試みが寝屋川市で始まっている。



協定書を手にする北川市長(左)と医療経済研究機構所長・西村周三氏

65歳以上を対象に、介護保険サービス利用者から300人、新規の認定者から300人、合計600人の参加者を募って実施される。

予防理学療法を取り入れた介護予防事業の客観的な成果評価を行う、医療経済研究・社会保険福祉協会医療経済研究機構と寝屋川市の協定締結式が行われた。(公社)

具体的には、介護保険サービス利用者や希望する要支援者を対象に、

理学療法士がケアマネージャーをサポート。日常生活の自立や社会参加を促す目標設定と実践プログラムを作成し、それに基

づく3ヶ月間、事業所でサービスを提供するというもので、「短期集中通所サービス」のモデル事業となる。現在、市内の要支援認定者は約3200人で、約2800人がサービスを利用。その中から

理療士がケアマネージャーをサポート。日常生活の自立や社会参加を促す目標設定と実践プログラムを作成し、それに基

づく3ヶ月間、事業所でサービスを提供するというもので、「短期集中通所サービス」のモデル事業となる。現在、市内の要支援認定者は約3200人で、約2800人がサービスを利用。その中から

市内の3事業所。今まで通りの介護保険サービスや介護予防・日常生活支援サービスがよいのか、理学療法士の力を借りて地域での活動や社会参加を通じた介護予防に取り組むべきか、今回の研究結果はそれを明らかにする。今後役に立てようとする試みに注目したい。